

チビコト^{S O T O K O T O}

特集：環の国・環のくらし LOHASを取り戻す都市生活



環境省

ぽん、ぽん、ぽん!



「環のくらし」が提案する7つの発想転換

「環」とは、環境に配慮し、

循環を基調とする次世代の「和」を指す言葉であり、

「環の国」とは「大量生産・大量消費・大量廃棄の社会」に代わる

「持続可能で簡素、質を重視する循環型社会をイメージするもの。」

- 豊かさは「モノ」から「心」へ
- 発想は「所有」から「共有」へ
- 地球環境は「無限」から「有限」へ
- 経済活動は「大量消費」から「3R (リデュース・リユース・リサイクル)」、「リシンク (改めて考える)」へ
- 商品は「量」から「質」へ
- エコライフは「質素」から「おしゃれでかっこいい」へ
- 家庭やコミュニティは「帰って寝るところ」から「暮らしの中心」へ

日本の都市がめざす LOHAS

情報で結ばれたバーチャルな関係から、
実感で結びつくリアルな関係の回復へ。

日本の都市は今、人、家、街、自然の「つながり」を取り戻そうとしている。

それぞれ楽しく、互いにやさしく、

ひとつの「環」に調和する次世代都市型の暮らしが

「LOHAS～Lifestyles Of Health And Sustainability

(健康で持続可能なライフスタイル)」だ。

どこか懐かしく、新しい、未来の暮らし。

そんな「環のくらし」の実現のために、

「住」「食」「街」はどう在るべきかを考える。

環の国・環のくらし

写真＝©Doable/amana image





**鷺沼コーポラティブ
ハウスの歩み**
Saginuma Cooperative House

2000.12

建設組合結成

参加メンバーが決まり、土地売買、建築士・コーディネイト業務委託の契約が交わされる。

2002.03

土地引き渡し

住民総会や近隣への説明会などに、住民が積極的に参加。コーディネーター任せにしない家づくり、コミュニティづくりが自然に模索され始める。

2002.05

工事着工

神主を招いた「地鎮祭」に神妙な気持ちで参加。家づくりへの思いを新たにする。

2002.12

忘年会

屋上の共用ガーデンの使い方を話し合う。住人のひとり、庭好きのおばあちゃんの育てている植物を移植し、ガーデニングを楽しむでもらうことに。

2003.02

上棟

住民同士でメーリングリストを作成。一緒に暮らしていく仲間として、活発な意見・情報が交換される。

2003.07

引き渡し・入居

約1年半におよぶ家づくりが終了。顔の見えるコミュニティで新たな生活が始まる。



ちに、欲しかった家がより具体的に現れてきたり、住人同士のコミュニケーションも深まりますから、最終的な満足度は高いのではないだろうか（都市デザインシステム・コーディネーター）。

住人の個性や、立地環境に強く影響されるコーポラティブハウスは、経験のあるコーディネーターにとっても「毎回、新たな課題や発見があります」という。「最初は私たちが先導していても、次第に住人の方から意見を頂いたり、お叱りを受けたり」など。比較的小規模な物件のほうが、より住人同士のコミュニケーションが深まることが多いように思います」。

神奈川県鷺沼に昨年7月、完成した「鷺沼コーポラティブハウス（現SPAZOS）」も、そんな道のりを経てきた。最初はコーディネーター任せで進むこと



個性的な部屋づくりもコーポラティブハウスならではの。
コーポラティブハウスの企画・コーディネイト
（株）都市デザインシステム
tel:03-5458-6781 www.uds-net.co.jp

が多かったが、やがて住民からの提案でメーリングリストが作成され、家づくりの議題から日々の情報交換まで、自然な交流が生まれるようになった。

住民のひとり、橋本さん夫妻は言う。「『こういう関係性って、実際に体験しないと分からないですよ。最初はただ良い条件で、好きな家づくりができるという理由で参加しましたが、今は住民同士の繋がりがコーポラティブ最大の財産だと思っています』」

メーリングリストという手段や、自由参加のイベントなど、住民それぞれのライフスタイルや意向を反映しながら、ここならではの関係性が築かれてきた。「あの家に新しく猫が来たとか、

話題はそんなもの（笑）。仲はいいですが、距離感もある。ベッタリではないのが快適な理由かもしれませんね」。

どんな人たちと一緒に暮らすのか。どんな距離が心地よく、どんなルールが必要なのか。1年半という時間をかけ、いくつかのハードルを越えることではじめて「自分たちのコミュニティ」の在り方が見えてくる。それはスローにつくることですが、手に入らない。

コーポラティブハウスが、万人にとってベストな住まい方ではないだろう。しかし、家を、人間関係を自ら「つくる」「参加する」意識を持つことは、日本の都市が取り戻すべき「HOMES」のひとつであるに違いない。

とある週末、最上階の部屋で住民主催のミニコンサートが開かれた。天井の高いリビングに心地よく響く音楽を、住民たちはおもしろい場所を楽しむ。



Cooperative House コーポラティブハウス

低価格で自由設計。コーポラティブハウスの特徴は、

そんなハードの側面だけではない。

土地取得、建築設計、コミュニティ形成まで「一緒につくる家」を選択した人たちの暮らしぶりから、コーポラティブの可能性、秘めた力が見えてくる。

写真＝小松士郎

デ イベロツパーに頼らない家づくり。住民が組合をつくり、住民主導でつくられるコーポラティブハウスは、納得できる価格設定、お仕着せでない空間づくりを可能にし、時代の共感を呼んでいる。しかし、分譲マンションならば業者に「おまかせ」で済む専門的な判断、たとえば建物の設計や予算配分、竣工後の管理方法など、住民自身が決断を迫られる。共用部分をどうデザインし、どう使うか。それぞれの専有空間だけでなく、全体についての話し合いを何度も重ねる必要がある。

首都圏で50棟以上のコーポラティブハウスを手がけている都市デザインシステムでは、そんな住民のストレスを緩和し、スムーズに楽しく、納得できる家づくりができるよう、専任のコーディネーターが世話を引き受ける。

「最終的な決定はすべて住民の方が行いますが、専門的な情報やノウハウの提供、悩みに対するアドバイスなど、経験からできるお手伝いをします。1年半かけていろいろお話ししていく

用スペースは、居住者によって賃貸されていて、24時間開放され、ダイニングは週3回のコミュニティミーティングの定例会に使用されるほか、友人を呼んでもいいし、住んでいる人同士で遊びくりつるのもいい。36畳という普通では考えられないほど広い空間が、自分のスペースとして自由に使えるのだ。

かんかん森に入居が始まったのは、昨年の6月。が、その2年半前から、コレクティブハウスの理解を深めるワークショップが開かれ、その中から居住希望者の会ができ、参加型の設計と運営が行われていった。住居に洗濯機置き場はあったほうがいいのか、リビングにはどんなテーブルと椅子を入れるのか、リビングにテレビを置くか……。35回を超えるワークショップを通して、多くのことが決まっていた。「こういう暮らし方は日本にはモデルがありませんでしたから、誰もイメージがない。住んでみてわかったことはたくさんありました」と語るのはプロジェクトに最初からかわり入居のコーディネイトを行っていたNPOコレクティブハウジ

ンク社の宮前眞理子さんだ。入居後も、さまざまなことが話し合われ、暮らし方のコツが少しずつわかってきたという。たとえば、コミュニティの準備当番でない人は、コミュニティでくつろいでいてもなんら問題は無いのだが、最初は、気遣いをしないといけないのでは、という思いからついつい毎回頭手伝ってしまい、かえって疲れてしまったと木村ひろ子さんは言う。「当番の人は、それが自分の仕事だからやっているだけで、手伝ってほしいとも思っていないのです。その辺の加減がわかって、だいが楽になりました。掃除も、当番の人たちがいっせいにやるのではなく、担当の場所を決め、各自が都合のいい時間に行っている。ただ、窓掃除は一緒にやったほうが楽しいし作業もはかどるので、都合がつく人は一緒にやっている。ルールは、臨機応変に変わっていく。試してみても都合が出たら、もっといい方法を考える。その柔軟さも、この暮らしの秘訣だろう。

かんかん森には15もの活動グループがある。生活に必要な要素を住人同士で分担して考えることで、ひとりあたりの負担を減らしながらも、生活の質は向上させる仕組みだ。「ある人がやること」部分を担う、と言ったのですが、あ、びったりだと思いましたが、各自が自立した生活を営んだうえで、暮らしの部分で助け合う。ひとりではできなかったことが、大勢ならできる。それが豊かな生活を生み出していくのではないでしょう

か」と宮前さん。コレクティブハウスは、誰にでも合う暮らし方ではないだろう。しかし、家族でも友達でもなく、適度な距離感のある緩やかなつながりは、新しい魅力がある。「生活を共有しているから自然に会話が生まれます。なにげなく交わす言葉から安心感が生まれる。この暮らしはさびしくないんですよ」という木村さんの言葉が心に残った。

午後7時を過ぎると、三々五々、人が集まってくる。来た人から順にテーブルを囲み、なごやかな夕食となる。席は特に決まってい



02

“Take part”という暮らし方
多世代が生活を共有する、かんかん森

Collective House コレクティブハウス

70年代の北欧で、働く女性たちが、よりよい暮らしを求めて実現したのがコレクティブハウジングという暮らし方だ。

集合住宅に共用空間を設け、住人が家事の一部をシェアするもの。

この暮らし方を、日本で初めて多世代で実現しているのが東日暮里にある“かんかん森”である。

写真＝小松士郎

コレクティブハウスには、ゆったりとしたソファやエクストレムの椅子、子供のおもちゃが。



上／掲示板には、各種のお知らせ、当番表などが。貴重なコミュニケーションツールである。
右／廊下にある活動グループのメンバー表。

午後4時半。食事当番の3人がコミュニティキッチンに集まってきた。今日のコミュニティ、23人分の夕食づくりの始まりだ。野菜を刻みだしをとり、お米を研ぐ。「じゃがいもが足りないね」「大根の切り方はこんなもの?」忙しく手を動かしながら、どんどん料理が出来上がっていく。6時半を過ぎると、仕事から戻った人が顔をだし、声をかけていく。7時をまわると人が集まりはじめ、来た人から順番に食べ始めていく。「これおいしいよ」「ちょっと味がうすい?」「キムチ持ってきたかな?」そんな声でしゃべりながら、笑い声が響く。これが、かんかん森のコミュニティの風景だ。

現在、かんかん森には、3歳から80歳まで、35人が住んでいる。世代も家族構成もさまざまで、ルームシェアリングをしている人たちもいる。この暮らしの特徴は、プライベートな賃貸の住居部分(キッチン、バス、トイレ付き)以外に、コミュニティ・ダイニング・リビング・テラス、家事室、洗濯室などの共用スペースがあることだ。共

ム社長、梶原文生氏は「シティホテルでも、ビジネスホテルでもない。地域住民と外からの来訪者が交流し、新しい流れが生まれるホテルをイメージした」と語る。

背景にしながら、ここ数年にわかに増えたデザインショップが立ち並び目黒通り。そのランドマーク的な好位置に立つ老朽化ホテルを見た瞬間、梶原文生氏は「これだ」と感じたという。

昔ながらの商店街や町工場を暮らすように宿泊できるレジ



AFTER

独身寮を 有料老人ホームへ

既存の独身寮を改築し、個室、共有スペースなど本来の構造を生かしつつ、高齢者にやさしい設備と快適な空間デザインを加えることで、居住性の高い「老人ホーム」として再生。高齢化社会に対する有望なマーケットとして、東京・神奈川を中心に事業展開されている。



BEFORE

デンシャルルーム、宿泊客と地元の人々が混在するカフェ、デザインやアーティスティックが共有するオフィス空間。時代がかったタイルや低い天井など、建物の「古さ」を逆手にとった斬新な空間デザイン。都市のエッジともいえるスポットに再生されたホテル「クラスカ」は、圧倒的な存在感と内外から集う人々たちによって、周辺地域の「流れ」を変えはじめています。

さらにもうひとつのリノベーションの顔が「有料老人ホーム」事業だ。企業が持て余している独身寮を建物の構造はそのまま残しつつ、高齢者という特定の居住者にとって快適な空間に改築する。

「もとは独身寮なので、各個室はあまり広くとれない。しかし構造体を再利用すればコストが下がり、入居者の負担も減る。部屋の広さはほとんどでもインテリアや機能面で居住性が高く、経済的に住めるなら、ニーズは必ずあるはずだ」と。都市デザインシステムがコーポラティブハウス事業で培った家づくりのノウハウにより、高齢者のために再生された建物は、機能的で

はあっても無味乾燥な今までの老人ホームのイメージを大きく覆す。

そしてリノベーションの可能性は、ホテルや老人ホームだけでなく、一般の住宅にも広がっている。

通常、中古物件を買う場合は不動産業者を介し、リフォームは専門業者に頼み、金銭面はその専門家に相談、となる。リノベーションの場合、購入からリフォームまでを都市デザインシステムが一貫して引き受けることにより、物件選びの際にデザイナーのアドバイスを待たり、度重なる中間手数料を省いた合理的な予算配分も可能になる。

譲ってしまうのは、簡単だ。建物の「新しさ」に対する、日本人の絶対的な支持も根強い。しかしリノベーションが建物のリサイクルという環境性や、立地・価格のメリットだけを謳うのではなく、制約を個性に変える発想力で「新しさ」を凌駕していくことで、日本の街並みは見失ってきた「時間の重み」を取り戻せるのではないだろうか。

※2014年4月4日撮影

老朽化ホテルを 新しいスタイルのホテルへ ホテル「クラスカ」

カフェラウンジ(1F)、ギャラリースペース(2F)、オープンスタイルのワークスペース(3F)、カスタマイズできるレジデンシャルルーム(27部屋)など、「どう暮らすか」という問いかけに答え

るように、さまざまな空間とサービスを内包する新たなスタイルのホテル。東京都目黒区中央町1-3-18
Tel: 03-3719-8121



写真＝皆川 聡

03 「制約」を「個性」に転換する建物再生 Renovation リノベーション

「古さ」が「新しさ」を凌駕する。
建築業界の常識を見事に覆したのが、都市デザインシステムの提案するリノベーション事業だ。
ハコ再生から暮らしの再生、場の再生へ。
スクラップアンドビルドに終止符を打つのは、柔らかな発想力だ。

条件の良い中古物件を購入し、改装して住む。
中古ならではの立地環境や価格のメリット、お仕着せでない空間づくりの魅力から、とくに都心部で人気の高い「リフォーム」。その発想を一步進め、建物と暮らし、建物と地域に新たな「動き」を再生させる。それが都市デザインシステムの提案する「リノベーション」だ。

なかば廃屋と化した目黒のビジネスホテルを、アーティスティックなデザインと「どう暮らすか」という新たなコンセプトによって再生させたホテル「クラスカ」。都市デザインシステ

本人の食卓の中に、ちやぶ台が登場するのは、実はそれほど古いことではなく、明治後半のことだ。それ以前の日本の食卓はどのようなものだったのか。その姿をすこし振り返ってみよう。

ちやぶ台の前は銘々膳

古代、支配層たちは大きな食卓を使っていたが、この習慣は奈良時代に中国から入ってきたものだった。史料が残っているのは、平安時代からで、公家たちの宴会などでは、机や台盤が使われていた。台盤は、長机である。それらは同じ階級の者同士が使い、身分の違う者が同じ台盤を囲むことはなかったが、それでも当時は一つ食卓を囲んで食事をしていった。

鎌倉以降、江戸時代まで、日本では武士の支配が長く続く。上下の人間関係が重視される社会では、食卓の姿もまた、それ以前とは異なったものとなった。強力なリーダーシップの下、ピラミッド型の厳格な序列が必要とされる武士の社会では、秩序が最も重んじられた。そのため、

なにを食卓の中に入れて、誰とどう食卓を囲むかは議論されても、あまり問題にされなかった。しかし、時代や世相を如実に反映するのは、実は「食卓の風景」ではないだろうか。私たち日本人は、食の場をどのように考え、どのように育んできたのだろうか。

食卓の変遷を辿ることで、きっと日本の食卓の未来が見えてくる。



江戸時代の商家の食事風景。主人夫婦と妻、手代では、使っている膳の形が違う。『日本永代蔵』より。

変遷・日本の食卓

文・小泉和子（京都女子大学教授・工学博士）

長を頭に、男、年長者が上で、女、年少者が下とはっきり位置づけられ、食事も上座から下座に向かって、身分の順に並び、銘々膳を前に正座し、家長が箸を取るまでは誰も食べ始めることができなかった。食事中の会話は禁止。用いる膳も、それぞれの身分によって決まっていた。

明治維新で、日本の社会は劇的な変化を遂げる。明治政府により、身分制度が廃止され、制度的には「四民平等」、身分的

ちやぶ台という言

葉は、明治3年、当時の大衆小説である飯名垣魯文の『西洋道中談話』にすでに登場するが、明治10年代の教科書に描かれた食事風景が銘々膳であることから、一般にはまだ銘々膳での食事が普通だったことがわかる。

ちやぶ台の定着

中ではちやぶ台の使用を呼びかけていることから、明治30年代後半あたりから、一気にちやぶ台の使用が広がっていったと考えられる。堀はこの文章の中で「一家団集の景色はもっとも多く食事のときにある。（中略）同一食卓においてすれば、みな同一のものを食わねばならぬことはもちろんである。世に不心得なる男子があつて、自分は每晚



右／明治35年の『小学・児童作法（訓画）』に描かれている家庭の食事風景。膳は父親のものが一番高く、母親は給仕役を務めるなど上下関係がよくわかる。みな神妙な顔をしていて、団集からはほど遠い。B下／昭和28年に撮影された新潟県南魚沼郡の農家の食事風景。まだ、箱膳が使われていた（中俣正義撮影）。A



な差別はなくなつた。しかし、すぐにみなが平等になり、同一の食卓を囲むようになったわけではない。

まず、西洋文化を積極的に取り入れることが国是とされた明治初期には、政府の重鎮や社会の指導的な階層の人々は、西洋館を建て、西洋のテーブルを取り入れた。やがて、町にも西洋料理屋やミルクホール、ピヤホ

1960年代の積水ハウスのカタログから。台所はすっかり洋風化し、ダイニングテーブルに家族が集まり、なごやかに過ごすさまが描かれている。家を買う人は、こんな生活スタイルに憧れたのだ。



昭和29年、日本橋の三越で開催された「デザインと技術展」に出展された食堂のモデルルーム。近代日本調と呼ばれた日本的デザインが、その後に影響を与えた。B

経済成長で手が届くものとなり、テーブル化は急速に進んでいく。昭和40年代から50年代にテーブルがちゃぶ台に取って代わり、60年代（1985年）にはほぼ転換し終えたのである。

こうして、日本人は形の上で

は豊かな生活を手に入れた。しかし、気がつく「一家団楽」の風景は、テレビやマンガの中でしか見られない、幻になってしまった。昭和56年（1981年）NHKが全国の小学5・6年生を対象に行った食生活に関する調査の結果は、社会の大きな波紋を投げかけた。大人不在の食事をしている子供が多く、食事に満足していない子供が非常に多かったのである。「孤食」や「個食」という言葉が生まれ、たとえ同じ食卓についていても、会話もなく、テレビを見ながら黙々と食事をする家庭は、そう特異なものではなく、むしろ普通である。食卓は、「家揃って楽しく食べる」場ではなく、なんとも怪しく、心が寒々としてしまう場に落ちてしまった。



左／『よみかた掛図』（昭和16~17年）に描かれた食卓の風景。B
下／昭和21年、家庭菜園で収穫した小豆を使ったまぜご飯を前にした一家の食卓。ちゃぶ台には、お箸、皿、スプーンと和洋が混在していた（影山光洋撮影）。A



る。さらに、ちゃぶ台の普及に大きな影響を与えたのが大正デモクラシーである。大正デモクラシーは、日露戦争後から昭和初めにかけて現れた政治・社会・文化面での民主主義的、社会主義的、国際主義的潮流のことだ。

これを背景に唱えられたのが「個人の尊重」と「一家団楽の生活思想」だった。これは生活改善運動として具体化され、さまざまな住宅改良案が主張されたが、その中心をなしたのは、台所の改良、主婦室の要求、子供部屋、そして一家団楽の

ための居間の確立などであった。こうした住宅改良を実現できたのは、ごく限られた人たちだったが、雑誌や講演などによって、一家団楽が家族の理想の姿として浸透していったのである。ここに至って「食事は一家揃っておいしく食べる」ことが日本人にも認識されはじめたのだ。

一家団楽が 開花した戦後

しかし、日本で一家団楽が、真の意味で実現するのは、戦後のことである。民主主義政策により、家父長的家族制度が解体し、個人の尊重、男女平等が確立した。一方、ラジオが国民的娯楽となり、茶の間でラジオを聞きながら家族全員でちゃぶ台を囲む、というパターンが定着した。茶の間という言葉が全国に広がっていき、その核となったのがちゃぶ台だったのである。こうして、ちゃぶ台と茶の間を中心とした一家団楽が実現していった。その一方で、アメリカ的な生活様式も急速に広まっていく。昭和30年代から始まる家庭の電化で生活は合理化され、電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気

釜などが主婦の家事労働を軽減させてくれるようになった。台所の洋風化も進み昭和40（1965）年には4軒に1軒がステンレスの流しになった。こうした中、次第にちゃぶ台に代わり、ダイニングテーブルが一家団楽の場となっていく。その先駆けとなったのが、住宅公団のダイニングキッチンだった。

住宅公団がもっとも力を入れたのが「食寝分離」であり、その結果、2つの寝室とダイニングキッチンという間取りの住宅が次々に建てられていった。

しかし、せっかくダイニングキッチンとしてつくっても、ちゃぶ台を畳んで、布団を敷いて寝られてしまつては食寝分離は果たせない。そう危惧した公団は、テーブルをつくりつけにした。当時、公団住宅は人々の憧れの的で、ダイニングキッチンでテーブルを囲んで食事は、庶民の理想の家族のあり方として、またたくまに広く普及していった。

ちゃぶ台からテーブルへ。憧れだったアメリカ流の豊かな暮らしと、それを象徴する明るく楽しいダイニング。これが高度

かもしれない。ちゃぶ台を囲んで家族が、友人が、近所の人が集まる。ちゃぶ台に込められている「精神」こそが、これからの日本の食卓を豊かにしてくれるに違いない。



A「昭和台所なつかし図鑑」（小泉和子著、平凡社刊）より。
B「ちゃぶ台の昭和」（小泉和子著、河出書房新社刊）より。

昭

和30年代の我が家では、まだ長火鉢が現役で活躍していた。秋から春までは、必ずそこに炭火が用意されていて、僕は学校からかえって空腹なときなど、自家製のカキ餅をあぶって、おやつに食べたり、鞍馬山の村から売りに来る、あんころ餅屋のおばさんの、あんがたっぷり詰まった餅を焼いたりしたのだった。

京都の食卓

文・イラスト 松山 猛



ヤシやかな
さすせにあふれた
昭和三十三年
だったね。

夕方5時になると、仕事を終えた父親が長火鉢の横の定位置に座る。火鉢の炭火にかけた鉄瓶で燗酒を楽しむ。親父の晩酌タイムのはじまりだ。末っ子の僕は父親のそばに座って、酒の肴のウルメイワシの干物やらをあぶってあげるのが好きだった。月に何度かは近所の魚屋さんが、京都でいう「お造り」つまり刺身にした季節の魚を出前してくれる。これはもっぱら一家の大黒柱である父親のための一品であった。

昭和30年代の食卓といえば、湯豆腐、すき焼き、我が家では「沖すき」と呼んでいた魚介と野菜の鍋物を思い出す。

今から考えると危険な感じだが、台所から伸ばしたガスホースの先のガスコンロを、食卓に置いての鍋物だった。猫のミーちゃん飛びこえる時、足にひっかけやしないかとハラハラしたものだ。

ちょうどそれは都市ガスが普及した時代だったから、我が家でも食卓でガスを使う料理のチャンスが増えたにちがいない。

明治の終わりの年に生まれた母は、昔

まだ日本の普通の家には、電気式冷蔵庫は普及していない時代だったから、少なくとも一日に一回、あるいは昼前と夕方の二回の買い物に出かけるのが常だった。

夕方の買い物には、学校から帰った僕がメモを片手にお使いもしたものだ。特に近くのコロッケ屋さん僕が定番だった。

さて夕方6時には家族が揃っての夕食だ。昭和20年代には外地から引き揚げてきた親類やら、戦争で焼け出された知人などの同居者がいた時代もあったが、30年代になると家族だけの食卓風景がそこにあった。

5月5日には藤森神社の祭りがあり、その日は鯖寿司を母が作った。お彼岸の「おはぎ」、正月前の「おせち」作りも、あの小さな台所と茶の間で、よくこなしたものだ。

当時の京都の暮らしには、季節の祭礼と共に欠かせぬ季節の味があったから、作りの女性たちはそれを頭に入れながら、普段の食卓を、いかに旬の安くなった食材を使い、家族を満足させるかの工夫をしたものだ。

風の煮物やら和食のおかず作りも上手だったが、カレーライス、ミンチボール、野菜たっぷりのシチュー、八宝菜などで晩酌の食卓を彩ってくれた人だった。

洋風や中華風のメニューは、当時毎月送ってきた「暮しの手帖」などで憶えたそう

だ。
家から歩いて5分くらいの所に、市電の泉湧寺の停留所があり、東大路の両側が次の今熊野電停まで、にぎやかな商店街になっていたから、良い食材が安価に手に入ったのだろう。

産業革命以後急速な発展を続けたロンドンには、世界中の情勢と富が集まる一方、工場労働者は劣悪な生活環境と異常なほどの人口密度で疫病や犯罪などのさまざまな問題が噴出する状況であった。このような都市への人口集中による問題を解決しようとして、イギリスの社会学者E・ハワードによって提唱されたのが、都市と郊外の利点を組み合わせた「ガーデンシティ」田園都市」構想だ。つまり、新しい

田園都市構想から

現在の田園調布は、かつて荏原郡調布村、玉川村と呼ばれていた地域にある。その一帯の土地を買収し、開発したのが、大正7年（1918年）に設立された田園都市（株）だ。田園調布の特徴は、一度見たら忘れられない同心円状、放射状パターン

田園調布の歴史

工業都市をつくって、緑に囲まれた健康的な小都市をつくるというものだ。その構想が実現したのが、ロンドン郊外につくられたレッチワースである。

一方、日本でも日露戦争や第一次世界大戦などでの急激な発展により大都市に人口が集中し、イギリスと同様の問題が表れてくる。

そこで、日本にも「田園都市」が必要だと考えたのが日本の近代資本主義の立役者、渋沢栄一だ。彼は「都市生活には自然の要素が欠けている。



大正13年（1924年）の田園調布駅。2階に「ジグス堂」の看板が見える。車に乗り込むのは渋沢栄一。

しかも、都会が膨張すればするほど自然の要素が人間生活の間から欠けていく。その結果、道徳上に悪影響を及ぼすばかりでなく、身体にも悪影響をきたして健康を害し、活動力を鈍らし、精神は萎縮してしまい、神経衰弱患者が多くなる」と語っている。

夢と好奇心の街ぐるみ公園

渋沢栄一の息子の、渋沢秀雄は欧米諸国の田園都市を視察し、なかでもサンフランシスコ郊外のセント・フランシス・ウッズの同心円状、放射状に広がったエトワール式道路を見て、田園調布に放射状、同心円状道路をつくることに決めた。「居住者は駅に最短距離で歩け、すべての道路が駅に集中することで郊外電車に通う人のためには一番便利である」「カーブのある道は、行く手が見通せないから人に好奇心と夢を抱かせる」と語っている。

田園都市を振り返る

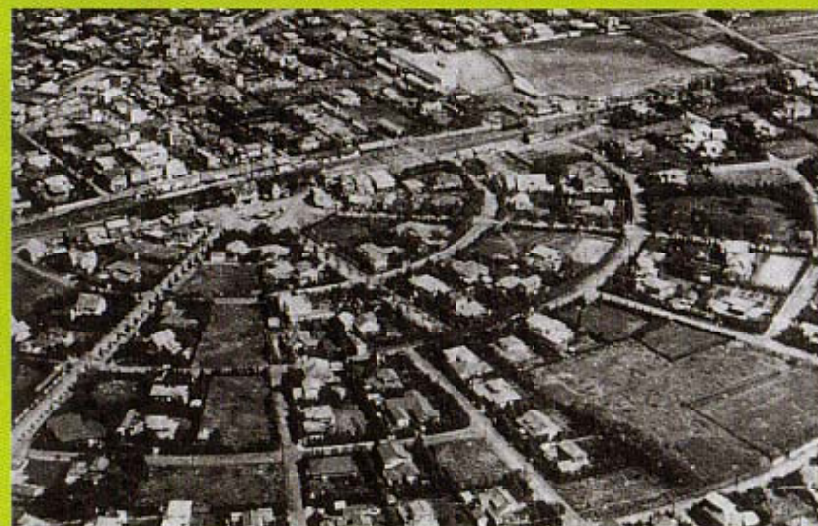
施設（田園調布カトリック教会）まで、あらゆる文化施設を設置した。

もう一つの特徴は、建てられた家々の魅力だ。開発当初から美観と環境の悪化を防ぐため、他の迷惑になる建物をつくらない、塀をつくる場合は美しい整ったものにする、建物は3階建て以下、建物は敷地の5割以下とする、建築線と道路との間隔は道路の幅の2分の1以上とするなどの厳しい規定をつくり、街全体にゆとりと調和をもたらした。

また、放射状、同心円状道路そして公園、広場などの公共部分の面積を18%と大変大きく取り、街ぐるみで公園になるように設計された。当時の平均的な分譲地では公共部分はおよそ5%ほどというから、およそ3倍である。また、住宅だけでなく、憩いの場（宝来公園、野球グラウンド（元田園コロシウム）、テニスコートなどのスポーツ施設、娯楽施設（多摩川園遊園地、小学校、幼稚園の敷地を確保し、医療機関、購買組合施設、宗教



左／田園都市建設時の沼部村（『東京横浜電鉄沿革史』より）
下／昭和元年（1926年）の田園調布駅周辺



LOHASな街 田園調布 の歴史

かつての漫才のネタで「田園調布に、家が建つ」というのがあった。田園調布といえば、誰もが認める高級住宅街。その成り立ちを見てみると、大変興味深い物語が、そして田園調布が田園調布足りえた理由が見えてくる。

文＝シトコ編集部
協力＝社団法人 田園調布会

ソトコト(以下ソ) 田園調布

のどういったところが好きですか? また、田園調布は、ほかの街となにが違うのでしょうか?

倉橋(以下K) 環境が良く、治安がいいところですね。あとはやはり、街のシンボルであるイチヨウ並木が素晴らしい。

藤野(以下F) わたしは、住民の方々に、街を愛する気持ちがあり、自分をしっかりもっていらつしやる方が多いところだと思います。同時に協力精神にあふれた、下町っぽいところもあります。ほかの街と違う点といえば、お店の営業時間は夜10時までとか、家の美観に関する協定など、街を守る決まり事がある



グリひろつたり。

K 多摩川園によく行きましたね。本当に小さな遊園地です。

F マッドマウスっていう小さいジェットコースターとかお化け屋敷とかね。

K ミラーハウスなども、よく多摩川園の裏側から忍び込んだ思い出があります。

ソ 「関東の駅百選」にも選ばれた駅舎は最近復元されたものとか。

F 昔の駅舎は真ん中にキップのもぎりがあって、木造で今よりも趣がありましたね。2階には食堂が入っていたそうです。

ソ 田園コロシアムの思い出は?

K ああ、「田コロ」ですね。

F 私は、デビュー当時のサザンオールスターズのライブや「ライブ・アンダー・ザ・スカイ」のジャズライブを最前列で見たい思い出があります。

ソ 田園調布でサザンオールスターズ。意外ですね。

K 本当はテニスコートなんです。おじいさんの頃はプロレスなどの格闘技をやっていたらしいですよ。

ここで、昔の話を聞こうと倉橋

くさんあります。街としてまとまっていることも、田園調布をスローな街に保っている理由の一つでしょう。

ソ 昔の田園調布について教えてください。

F 私たちの世代は、遊びに行くといえは河原で野球です。街自体で野球が盛んでした。あとは公園でザリガニ釣ったりドン

田園調布は、 上から見るとイチヨウの 葉の形を してるんですよ。

caffe gino代表取締役

藤野清久 × 倉橋弘行

Kiyohisa Fujino

Hiroaki Kurahashi

藤野氏は幼少時から田園調布に暮らし、現在、駅正面上に「caffe gino」を構え、手作り、本物にこだわった真正銘のスローフーダー。一方、倉橋氏が代々営む調和社も、創業以来65年の歴史を持ち、駅前から田園調布の変遷を見守ってきた。地元の視点から「LOHASな田園調布」を語ってもらった。

文リットコト編集部 写真:小松士郎

さんのお父様、倉橋八さんに登場願った。

藤八さん 私は東京オリンピックの後(1965年)に先代から継ぎました。小さいときはよく多摩川園に遊びに行きましたね。戦前には、多摩川沿いにガラス製の温室が何棟もあって、それはすごかったです。今でも「玉川温室村」というバス停が残っていますよ。昔は家にも塀がなく、どの家も花が咲いていてきれいな街でしたよ。放射状道

路にはイチヨウ並木があるでしょう。駅の反対側にもイチヨウ並木があって、上から見るとイチヨウの葉の形をしているんですよ。田園調布は高級住宅街だけれどというイメージがありますが、それ以外に良いところがたくさんあるんですよ。

田園調布の発展を見守ってきた倉橋八さん、そして現在の田園調布を引っ張っている藤野清久さん、倉橋弘行さんのことは

どおり、田園調布はLOHASな街だ。くわしくは、次のページの「田園調布スローナンバーマップ」にて。



倉橋弘行

不動産鑑定士事務所
東京都不動産のれん会会員
1960年東京に生まれる。
田園調布駅前に構える調和社(創業昭和11年)にて田園調布の不動産売買に関わっている。
(資)調和社
大田区田園調布2-49-15
☎03-3722-3355
<http://www.chouwasha.co.jp/>



藤野清久

caffe ginoオーナー・ソムリエ
ファミリー株式会社代表取締役
1960年東京に生まれる。
2001年の田園調布駅改装に合わせて改札口前に「caffe gino」出店。
ワインショップ「フレンディ」で直輸入ワインの販売も行っている。
caffe gino & フレンディ
大田区田園調布2-62-3
東急スクエアガーデンサイトアネックス1F
☎03-5483-7722
<http://r.gnavi.co.jp/g687603/>

街をつなげる サンクス ネイチャーバス快走中

田園調布の隣町、自由が丘の街はいろんなお店が多くて見て回るだけでも楽しい街だ。しかし車の交通量も多く、決して歩きやすい街とは言えない。そんな自由が丘を、無料で巡回しているバスがサンクスネイチャーバス。現在は水曜日を除く12:00~21:00の間、1時間に2本運行していて、手を挙げればどこでも乗り降りできる。利用者は月間3000~3500人ほど。97年に走り始めたこのバスは「地域のネットワーク」と賛同するお店や施設のオーナーや個人サポーターが出資して運営している。つまり、市民が支えるバスなのだ。しかもバスを走らせるだけではつまらないと、天ぷら油からリサイクルした燃料で走るバスになった。ちなみにバス停のひとつ、立寄寺で家庭から出る廃油を回収している。実際に乗車してみると、お年寄りや子ども連れも、気軽に利用していて、喜ばれているようだ。これからも渋滞緩和、省エネに貢献しつつ、サンクスネイチャーバスを走らす会は自由が丘全体が「パーク&バスライドに発展していったら」と願っている。



NPOサンクスネイチャーバスを
走らす会

☎03-5729-2511
<http://www.thanksnaturebus.org/>



復元された田園調布駅を背に街について語る二人。



00209 渡し舟



00221 ぼかばか広場



00213 いろいろいるよ丸子川



00215 雑貨屋 in 商店街



00203 子どもの像を探そう!



00204 畑と直売所

00209 渡し舟

多摩川玉川公園

多摩川通り

00217 月4万円で田園調布に住む

00215 雑貨屋 in 商店街

00204 畑と直売所

00223 ホントに魚坂

00212 田園調布 昔は二軒も

00223 和室のサンドウィッチ屋さん

00243 田園調布会

00219 田園調布会

00227 ニュロニョロニランダ

00233 子どもの入口あり

00200 米屋不動産

00232 昭和ムンシ

00234 おからリサイクル

00228 イス張り替えます

00210 こんなところに滝が!

00224 フキと探ってはいけません

00230 えごころば

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

自由が丘駅
00265
サングスネイチャー・バス

丸品仏駅

00216 玉川まちづくりハウス

00201 Pate屋

00262 喫茶えんがわ

00231 せまっ! ALEX Coffee

玉川浄水場

00216 3階のヒミツ

00212 cafe gino

00207 駅前ベンチ

00219 田園調布会

00227 ニュロニョロニランダ

00233 子どもの入口あり

00200 米屋不動産

00232 昭和ムンシ

00234 おからリサイクル

00228 イス張り替えます

00210 こんなところに滝が!

00224 フキと探ってはいけません

00230 えごころば

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

00208 ヒミツの店

00202 横幅1.5mのたまや食堂

00205 Art & River Bank

00206 富士山と鮎犬

00262 喫茶えんがわ

Denen-chofu Slow-Number Map

田園調布 スローナンバーマップ

田園調布は単なる高級住宅街ではない。少し歩けばイチョウ並木に、多摩川には渡し舟、畑と直売場、古墳に滝まである東京でも有数のLOHASスポットあふれる街なのである。そのLOHASスポットを、スローナンバーマップ化したのがこの田園調布スローナンバーマップ。ちなみに、ここに載っていないLOHASスポットも携帯電話とPCから見られるので要チェックだ。さあ、ナビと携帯電話を持って、田園調布に出かけよう!

制作=ソトコト編集部
協力=NPO 創造支援工房フェイス 00270



00210 こんなところに滝が!



00205 Art & River Bank



00206 富士山と鮎犬



00262 喫茶えんがわ



00208 ヒミツの店



00202 横幅1.5mのたまや食堂



これが「スローナンバー」
スローナンバーの使い方
このページについているスローナンバーは、地球と人をながもちさせる「認定番号」です。

【使い方】

- 1 いつでもどこでも、携帯電話で www.sotokoto.net にアクセス!
- 2 ナンバーを入力ボックスへ入力して、ジャンプボタンを押す または トップメニューから、探したい情報の項目を選択
- 3 ホットとするスポット、LOHASな情報などを取りだそう!
くわしい使い方は「ソトコト」の目次を。
※パソコンからもアクセスできます。トップページ右上の「スローナンバー」ボタンをクリックしてください。

グラウンド
00208 富士山と鮎犬
00205 Art & River Bank
00206 ドミツの店

丸子橋

浅間神社

中原街道

環状8号線

世界でも有数の規模を誇る東京「汐留再開発エリア」。その「西街区」に位置する「チッタ・イタリア」街づくり開発事業計画は、平成6年、この地域の地権者が集まり、汐留地区対策協議会を設立したことから始まった。

以来、足かけ8年。東側地区に高層ビル群が次々と完成するのを尻目に、「チッタ・イタリア」は未だ街として「完成」していない。まさにイタリア的スロー、である。

「私たちは『イタリアのテーマパーク』を造っているのではありません。イタリアの地方都市の在り方、商業や観光をバランスよく組み入れながら、地元の人たちが愛着をもてる街づくりを、ここに再現したいんです」。開発営業部の三浦健次氏はそう語る。

「イタリアの街づくりのベースとなっている『都市マーケティング』を基盤に、汐留という地域性、広さ、人の出入りなどのデータから、出店する店の種類や数、サインの出し方からマネーまでを決定し、出店者には必ず守っていただいています。プ



Citta・Italia

ティックばかりが並んだり、チェーン店の看板が並んだりしない、ここに「あるべき街」であること。それは地権者たちの願いでもあるんです。

「第一期では私たちの考えに共感してくださった小さなメーカーや個人の方と、ビルのオーナーが直接お話しして、お互い融

場所が東京にあっても、いいんじゃないでしょうか。

いずれこの街に「学校」や「住まい」もつくりたいと三浦さん。「出店している職人が技術を伝え、住人と店のコミュニケーションが活気を生む。ここから外へ広がる、伝わる、生きた街を目指したいですね」

『汐留』に なぜ『イタリア』が？

東京、汐留。

ビジネス街として都市開発が進み、高層ビル群が立ち並ぶ角。「チッタ・イタリア」はその姿をあえて隠すように、静かな佇まいを見せる。なぜここにイタリアの街が？

そこに汐留を住み継ぐ人たちの想いがあつた。

通したり協議しながらコツコツと進めています。

営利を第一の目的としない。

子や孫の代にまで残せるコミュニティ、暮らし、知恵のある街をつくる。

「時間も手間もかかりますし、関係者の方々の協力なしにはありえない手法です。でもこんな

そんな街は、ゆつくりとしか出来上がらない。それ待とうと決めた人たち。

汐留の「小さなイタリア」は、そんなイタリア人に勝るとも劣らない「おらが村」への想いが支えている。

小池百合子



平野次郎

Lifestyles for Nostalgic Future

Yuriko Koike & Jiro Hirano

懐かしい未来派の暮らしへ

人を、 世界をつなぐ 環のある暮らしとは？

環境問題、環のある暮らしを考えるうえで、政府やメディアはなにを目指そうとし、目指すべきなのか。

環の国の環境問題をリードする政府責任者として、また積極的な提案を続けているオビニオンリーダーとして、小池百合子環境大臣と平野次郎氏にそれぞれの思いを語っていただいた。

どこから来て、どこへ行くのかが 「見える」仕組みづくりを

「おふたりが「環」を意識された、最初のきっかけは？」
小池 私は、子供のころ新しいものの好きの父親がどこから買ってきた「箱入りの使い捨てティッシュペーパー」。昭和30年代の話ですけど、これは衝撃でした。親たるものが、そんな簡単にものを捨てていいのかと(笑)。

平野 私は12年ほど前、NHKの番組でスウェーデンのイエテボリにある自動車工場取材したときですね。環境担当副社長という人がいて、「この工場では生まれた自動車は、この工場へ帰ってくるのだ」と。解体された部品にはすべて番号がついていて、完全に分別されたのと同じ部品へ再生される。ああ、これが環なんだと感じまし



ふたつの「P」、そして新たな「P」へ。 つながりへのステップを考える

「小池大臣はかねてから「ふたつのP」、フィロソフィ(哲学)とピーアール(広報)の重要性を説かれていますが、環のくらしについてはいかがでしょうか？」
小池 環境が大事、という哲学としての意識は、すでにみなさん持っていると思います。環境という部分でもうひとつ、新たに

「P」を加えるとしたら、「プラクティス(実践)」ですね。
平野 私もゴミの分別を実践していますが、これがなかなか分かりにくい。ビン一本を捨てるにも、油が入っていたビンも一緒に捨てるのか、フタやラベルはどこまで外すのか。それはよく考えたからといって

た。

小池 学生時代に学んだアラブで、私が下宿していた家の家主さんは毎日せっせと、家具を磨いていましたね。聞けば100年以上も前の、曾祖父の代から使っているものだ。いいものを買って、長く大切に使うという習慣もまた環ではないでしょうか。
平野 日本人も今また少しずつ、そんな暮らしを志向しはじめているのでは？

小池 たとえば使い捨ての商品であっても、リサイクルの対象になるものを選ぶとか。そういう意識は確かに高くなっていると思います。

平野 リサイクルという仕組みが、日本でもっと「見える」といいですね。アフリカのウガンダに行ったとき、日本製の古いバスが再利用されて走っているのを見て驚きました。地球規模のリサイクルがもっと、分かれるといいですね。

昔の日本の農村では野菜を洗うのも、洗濯をするのも、飲み水を引くのも同じ川で、そういう「流れ」がよく見えていました。

小池 農業社会は循環型の社会です。そこへ工業化による大量のモノが押し寄せて、どこから分らないところへ捨てられていく。たくさんモノを所有する消費するという文化が、日本社会の環の流れを変えてしまった。

平野 大量生産、大量消費の時代はもう終わったんだという自覚を、まず持たなくては。

分かることでもない。これらがどこでどう扱われるのかという「仕組み」が見えていないとだめだと思います。

小池 極めて分かりやすい、単純な方法でゴミを分別できるようにする。それは大きな政策課題のひとつだと考えています。

平野 自分の所有から離れていったものが、どういう運命を辿るのか。ゴミの分別だけでなく、都市の生活というのは「見えにくい」ですね。

小池 隣人の顔もよく見えていなかったり。それが都市生活の気楽さでもあるわけですが、最近の犯罪の多発などで、やはり顔も知らないのは不安だという意識になっているのではないのでしょうか。

平野 高度経済成長の時代はとにかく仕事で、お父さんは隣人の顔どころか、自分の家の門すら明い時間に見ることがなかった。それを自負していた時代だったんですね。

小池 現代の日本人は、政治経済に対する不安はあるけど、餓えに苦しむようなことはない。漠然とした時代の不安というか、そういう空気が、暮らしや生きがいを目を向けさせているのでは。

「そういった社会状況下で、もうひとつの「P」、環境に対するピーアールはどうあるべきでしょうか？」

小池 やはり環境を考える、行動する楽しさや達成感をもっと伝えることでしよう。自分の行動によって川に鮎が戻ってきた、

平野次郎
学習院女子大学特別専任講師
国際基督教大学教養学部社会科学卒業
昭和40年NHK入局。
放送記者、特派員を経て「海外ウィークリー」
「NHKニュースワイド」などの国際情報番組キャスターを担当。
その後ジュネーブ支局長、ヨーロッパ総局長を務め、
平成3年解任委員となる。
著書に「アメリカ・もうひとつの報告」
「日本を愛したスナイ」
「国際ニュースをどう読むか」ほか多数。

小池百合子
環境大臣
カイロ大学文学部社会学科卒業
アラビア語通訳、番組コーディネーター、キャスターを経て
平成4年、参議院議員当選(日本新党・比例区)。
平成5年、衆議院議員当選(日本新党・兵庫2区)。
平成14年に自由民主党へ入党、平成15年9月より環境大臣。
著書に「永田町ブロードキャスター」(朝日新聞社)
「日本破局のシナリオ」(共著/新講社)
「デロは日本を変えたか」(共著/廣済堂)ほか。

Jiro Hirano × Yuriko Koike

Lifestyles for Nostalgic Future

Yuriko Koike & Jiro Hirano

都市と自然、生と死、日本と世界 その環を感じる暮らしへ

森や水がよみがえった。そういうビジュアルな自己実現を、日本人は渴望しているのではないだろうか。

平野 アメリカのマクドナルドには、使用済みのナイフやフォークを再利用してプラスチックブロックを作り、それを積み上げて建てた店があるんです。一種のデモン

ストレーションですが、遊び心がありますよね。

平野 ウィットのある環境発想、ですね。
石油だって石炭だって、昔は廃棄物、ゴミだったわけで(笑)。そういうふうに考えていくと、環境問題は子供にとっても楽しいものになるのでは。

小池 アメリカの通信販売を見ると、アウトドア製品がすごく充実していますよね。自然と関わる、楽しむ暮らしが定着しているんです。

平野 ヨーロッパでも子供たちを夏はキャンプ、冬はスキーへと積極的に自然のなかへ送り出します。

小池 日本はまだ大人にその余裕がないんです。こんなにナショナルホリデーをつくって強制的に休暇をつくっても、やっぱり休めない。

平野 経済活動が少しスローダウンして、大人が仕事以外に目を向けるようになれば、それはいいチャンスです。自分が育った川を思い出すような、そういう時間を持つことが大切です。

小池 東京には、大自然どころか蚊や蟻す

ら減っているそうです。その一方でこれだけペットを飼う人が増えて、生き物や自然に触れたい、慈しみたいという気持ちが大きくなっているのかもしれない。

——生と死の循環も含めた暮らしのつながり、環の意識が取り戻されつつあるのでしょうか？

小池 アメリカのBSEの影響で日本のチキン店から牛丼がなくなったり、こういう事件が結果的に、世界が繋がっていることを知らしめています。

平野 善くも悪くも、そういう繋がりがからは逃れられない。後戻りできない構造になっているんです。

小池 たとえばフランスでは酷暑で2万人が亡くなったとか、そういう情報がすぐに世界中で共有される時代にあつて、世界共

通の危機感を日本がどう自分たちの産業や文化にそれを転じていくのか。私はそれを「環境革命」と位置づけています。

平野 確かに、革命的な意識、行動の転換は重要ですね。

小池 楽しみながら、小さなことを積み重ねながら、でも危機感は大きく持つこと。革命だという意識でやらないと間に合わない。

——最後にソート読者へメッセージをお願いします。

平野 環境とはまず自分の頭で考えること、だと思います。環境の意味するものは、時代によっても人によっても変わっていきま

小池 楽しく環境を考える、行動するアイディアを、環境省へお寄せください。ひとりひとりが環境を自分のこととして考え、行動することで、環のくらしが取り戻されるのだと思います。

「環の国暮らし会議」 本体会議の流れ

第1回

2002年2月16日 東京

大木環境大臣が本会議の趣旨等を説明後、各メンバーから地球温暖化についての考え、取り組み等を紹介。その後のフリーディスカッションから「CO₂対策の重要性」「価値観の見直し」「知識から実際のアクションへ」など、次回以降のテーマとなる発言が行われた。

⇒分科会の設置、ミニ講演会の開催

第2回

2002年8月3日 東京

はじめに地球温暖化対策のための環境教育モデル教材であるDVDの一部を上映。

分科会における議論の内容が「環のくらしイメージイラスト」等を用いて説明され、その報告を受けて各メンバーが発言。「車」「家電」「教育」「地域の活動」など、より具体的なプラン・アクション提案が行われた。

⇒ハンドブック「私の環のくらし」

第3回

2002年12月7日 京都

「温暖化対策モデル事業」等の活動について、3つの団体が事例を発表。また「環のくらしフォーラム」から「電球型蛍光灯の普及に向けたアクションプラン」について報告。特別メンバーである山田京都府知事から、京都の知恵や環境を生かした活動、世界水フォーラムに向けた抱負が述べられた。

⇒「環の国暮らし会議 京都宣言」

第4回

2003年5月24日 熊本

「夏の環のくらし」をテーマとし、各メンバーが夏の暮らしの知恵と工夫、夏のスタイルについて発表。さらに夏至の消灯イベント「百万人のキャンドルナイト」の紹介、グリーンディングカードによる「CO₂削減・百万人の環」参加が呼びかけられた。

⇒「環のくらし応援BOOK」

最新情報は「環のくらし」ホームページ
<http://www.wanokurashi.ne.jp>
参照

環の国暮らし会議 分科会

分野の専門家や具体的な実践活動に携わっている方々をメンバーとした環の国暮らし会議分科会を開催。「知ろう・学ぼう・考えよう」「住まいとくらし」「地域の取り組み」「国民の足」がテーマに。(開催期間:平成14年4月~7月)

環の国暮らし会議 講演会

「環の国暮らし会議」メンバーをはじめ、分科会や応援団メンバーが各地域のイベントに赴き、講演会やトークショーを開催。

環のくらし フォーラム

「環のくらし」のアイデアを実践していくための具体的な取り組みに向けて、情報・意見交換を行う場として開催。

環のくらし シンポジウム

日常生活における地球温暖化対策に、自動車をどのように位置付けるかを、研究者、自動車メーカー、IT技術メーカー、マスコミ、そして行政の立場から、最新技術とライフスタイルを結びつける自動車の近未来像に迫る。(開催:平成15年11月4日)

エコ・ハウス 整備事業

「地域調和型エコ・ハウス整備事業」により、全国9か所にエコハウスが完成。

ひとりひとりが 行動する「きっかけ」を提案する 環の国暮らし会議 とは?

環の国暮らし会議 メンバー

※敬称略・五十音順

大場啓二	前世田谷区長
大平光代	弁護士
小澤普照	森林塾主宰
潮谷義子	熊本県知事
伊達公子	テニスプレーヤー
立松和平	作家
辻信一	明治学院大学教授・NGO「ナマケモノ倶楽部」世話人
寺田千代乃	アートコーポレーション株式会社 代表取締役社長
長島亜希子	主婦
西田ひかる	俳優・歌手
平野次郎	学習院女子大学特別専任教授
広瀬久美子	アナウンサー・エッセイスト
宗国旨英	本田技研工業株式会社代表取締役会長
森下洋一	松下電器産業株式会社代表取締役会長
山本良一	東京大学教授
養老孟司	北里大学教授

地 球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻化している中、その引き金となっている現代のライフスタイルを、環境に配慮した、かつ私たち自身にとってもより人間的で豊かなものに革新するには?

環境省は2002年2月から2004年1月にかけて「環の国暮らし会議(全五回)」を開催。各界のオピニオンリーダーの方々から温暖化防止の取り組みを披露していただくことなどを通じ、ひとりひとりの意識改革と、自発的な取り組みを促すメッセージを発信している。

さらに、環境大臣が主催する本体会議を軸に、より具体的なアイデアとアクションプランを深める場として、「分科会」「講演会」「フォーラム」「シンポジウム」も開催。また会議の内容はハンドブックの出版やホームページを通じて報告されている。

「ひとり一人の意識づけ、心構えが非常に重要」



伊達公子
テニスプレーヤー

「この会議を環のくらしが当たり前文化・風土の一里塚に」



潮谷義子
熊本県知事

「『環のくらし指数』といった製品表示をつけてはどうか」



小澤普照
森林塾主宰

「ライフスタイル変革には、ひとりひとりの行動が必要」



大平光代
弁護士

「いかに未来の人たちに安全な空気、水、食料を与えられるか」



長島重希子
主婦

「企業、個人が自立してできるレベルがあることを訴求したい」



寺田千代乃
アートコーポレーション株式会社
代表取締役社長

「大量に消費する生活を『なまける』ことが必要だ」



辻 信一
明治学院大学教授、
NGO「ナマケモノ倶楽部」世話人

「できることは小さくても毎日持続することが何より重要」



立松和平
作家

「環境問題はすべての方々が自分のできることに、日々取り組むことが大事」



宗国旨英
本田技研工業株式会社
代表取締役会長

「家庭の主婦が、実行したいと思うきめ細かいPR活動を」



広瀬久美子
アナウンサー、エッセイスト

「企業のCMに社長が出るなど、『顔』の見える訴求を」



平野次郎
学習院女子大学特別専任教授

「まずは少しずつSave Energyの仕方が浸透すればいいのでは」



西田ひかる
俳優・歌手

「まずみんなで知恵を出し、その知恵を共有することから」



大場啓二
熊田町区長

「環境問題は、予防と治療の関係に似ている」



養老孟司
北里大学教授

「この『環境の壁』を怒濤の情報で破っていくべき」



山本良一
東京大学教授

「ライフスタイル変革には『行為』と『道具』の連携が必要」



森下洋一
松下電器産業株式会社
代表取締役会長

最
終回となる第五回会議は、小池百合子環境大臣の「この環を、今後どう広げていくかを議論していただきたい」という開会挨拶が

ら始まった。
まず最初に、エコロジー商品の解説と暮らしの知恵を紹介した冊子「環のくらし応援BOOK Part2」を中原武蔵工業

さらに夏至の日に行われた「百万人のキャンドルナイト」を例とし、ひとりひとりの参加をどう促すが、その具体的な方法について議論。「一般の主婦はまだまだ関心が薄い。『環境と家計にやさしい』など、よりわかりやすい表現が必要」（広瀬氏）、

「『環の国くらし会議』その後は、環境省ホームページ（前ページ参照）でも報告される。この「環」がこれからどのように広がり、繋がっていくか。ソトコトも「環のくらし」を応援していきたい。



第五回 「環の国くらし会議報告」

平成16年1月24日、丸ビル・コンファレンススクエアで開催された「第五回 環の国くらし会議」は、7名の参加メンバーを迎え、小池百合子環境大臣による議事進行でスタート。欠席メンバーからのメッセージも紹介され、前4回までの総括を含め、より具体的な行動へ広げていくための活発な意見交換が行われた。

大学教授が解説。「製品の省エネ性能についてはあまり表示されておらず、流通を含めて正しいPRが必要」（森下氏）といった意見が出され、例えば、エアコンなどの家電製品については、その環境性能を、より分かりやすく伝える日本語表示やPRの必要性が論じられた。
次に、これまでの会議の活動経過と成果を振り返りつつ、今後の「環のくらし」の推進方法について議論。「環境についての本を出しても思うほど部数が出ず、『環境の壁』を痛感している。発言に影響のあるメンバーを集めた「百人委員会」を作ってはどうか」（山本氏）という意見に対し、小池大臣は「伝え方のプロがメンバーに必要。参加する楽しさをどれだけアピールできるかが重要だと思う」と述べた。

また「環境問題は予防医学と同じで、悪くならないと耳をかさない」（養老氏）との意見に対し、小池大臣は「環境問題は10年ですばいぶん土壌ができてきた。今後の進め方について、なにが必要かを考えていきたい」と述べた。
メンバーからの意見に共通したのは「分かりやすい、楽しさのPR」。環のくらしの具体的なイメージづくりと、どうアプローチするかの方法提示が今後の最大の課題だ。

チビコト

Contents

002	環の国・環の暮らし
004	住 コーポラティブハウス
006	コレクティブハウス
008	リノベーション
010	食 変遷・日本の食卓
014	京都の食卓 松山 猛
016	街 LOHASな街 田園調布
022	『新橋』になぜ『イタリア』が？
023	人を、世界をつなぐ環のある暮らしとは？
028	環の国暮らし会議とは？
030	第五回 環の国暮らし会議報告

協力

環境省 地球環境局

地球温暖化対策課 国民生活対策室

「環の国暮らし会議事務局」